

大正から昭和にかけての院庄駅

写真提供・江見写真館



現在の院庄駅

写真は、JR姫新線の院庄駅です。昭和2年に刊行された『苦田郡誌』に同様の写真があることから、大正末期から昭和前期にかけての様子と思われる。姫新線の鉄道建設は、地元有志などが設立した「西美鉄道株式会社」によって、まず、津山・勝山間が計画されました。しかし、用地買収や路線選定などが難航したことから資金繰りが悪化し、会社は、破産の危機を迎えます。そこで、地元有志が、国の鉄道院に鉄道建設の嘆願を行い、その結果、鉄道院は、西美鉄道株式会社を買収し、官営鉄道として建設することになりました。

そして、大正10年、津山(美作)と新見(備中)を結ぶ路線・作備線(後の姫新線)として建設が始まりました。院庄駅は、大正12年、作備線の津山・美作追分間の開業に伴い営業を始めます。後に刊行された写真集『目でみる美作の100年』によると、院庄駅は、奥津地域で生産される薪炭や、木材の出荷、駅近くにある郡是製糸(現在の津山グンゼ株式会社)で使用する繭の荷受けを行うなど、貨物輸送の駅としても重要な役割を果たしました。また、戦時中には、郡是製糸で製造された飛行機の翼を輸送する駅としても利用されました。

現在の駅は、無人駅となり、駅舎の半分は取り壊され、貨物の取り扱いは無くなってしまいました。が、通勤や通学など、地域を支える公共交通として、その役割を果たしています。

このコーナーに掲載する懐かしい津山の写真を募集しています

閩津山郷土博物館
☎22・4567



先日、子どもが勢いよく転んでテーブルに顔をぶつけた時の姿が頭から離れない。テーブルを遊び部屋の真ん中に置いていたわたくしが悪かった。わたしが気を付ければ防げたケガだと思う。子どもを健やかに安全に育てることは難しいが、大切に思う気持ちがあればなんとかがやいていけるはず。(W)

だらけきつた体を鍛えるため、5年ぶりに、ジムに行きました。常連さんが勢いよく重りを上げる姿を横目に、筋トレに使う機械の使い方など職員の方に教えてもらいました。終了後の爽快感から、週に1日は行こうと決心して3週間が経過。まずは心を鍛えよう。(雨)

日頃、市内を取材していると思わぬ発見に出くわすことがあります。今回、あの頃の津山で院庄駅周辺を取材していると、院庄駅の駅長日誌を保管している人に遭遇。郷土博物館に持ち込むと貴重な史料だと分かりました。現在準備が進む、新しい津山市史にこの史料が使われるかもしれません。(修)

今月の表紙

10月12日

高田神社(上横野)

邪気を払い幸を呼ぶ
獅子舞

編集・発行 (毎月10日発行)

津山市総合企画部秘書広報室(市役所3階)〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-32-2029 ☎0868-32-2152 ✉kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます

<http://www.city.tsuyama.lg.jp/>



津山市ホームページ

☆津山市のフェイスブックはこちら
<http://www.facebook.com/city.tsuyama.kouhou>



津山市フェイスブック

